

人材育成プログラム「F研」が40周年

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長兼 COO：松井徹）は、当社の人材育成プログラム「F研（フォアマン研修）※」が2月15日をもって40周年を迎えましたので、お知らせいたします。

※フォアマン（Foreman）研修は、監督者を目指す人のための研修。



第183期終了時の記念写真



発表会の様子

F研は、1976年2月15日にスタート。今日まで1日も途切れることなく続いている当社でも歴史のある研修です。当初、製造現場での品質管理の徹底を具体的に推進する方法として開始しました。その後、その時々に対処すべき最重要課題への取り組みに変化しつつ、現地現物で事実をつかみ、把握した問題を改善するというプロセスを繰り返すことにより、現場で自ら改善活動ができる人材を育成しています。

F研生は各部署から選抜された3～4名がチームとなり、每期8～10チームが約3ヶ月間、自部署の仕事から離れて活動に没頭します。今年1月末時点で183期までが終了し、現在は184期生が研修中。40年間での延べ受講者数は4,369名となり、総テーマ数は1,436に上ります。近年は当社従業員だけでなく、国内外のグループ会社従業員、さらにお取引先の方々にも参加いただくようになり、大きな広がりを見せています。

活動にあたっては、関連部門からその時々事業課題に即したテーマが選定されます。テーマを選定した職場や関連部門のスタッフも自職場の課題として、F研生と協働で改善の方策を検討。活動の経過や結果を伝える発表会には、役員をはじめとする経営層も参加し、会社の方針や思いを伝えるとともに、激励・賞賛することでF研生の高いモチベーションを維持します。3ヶ月という短期間の中で、徹底した事実把握と関連部署を巻き込んだ改善を繰り返すことで、終了時のやりがいと達成感を強く感じ、職場に戻ってからも改善活動を積極的に進めていく人材が育っています。

当社グループが23ヶ国103拠点とグローバルに展開する中、海外拠点でも改善活動が活発化しています。F研40周年を機に、「住友理工グループ・グローバルF研」制度を発足予定で、日本のモノづくりの強みと海外拠点の特徴を組み合わせ、改善活動の効果をより高めていきます。

当社は、長年培ってきたモノづくりの風土や文化を生かし、現場での発見力、改善力を受け継ぎながら進化させ、“Global Excellent Manufacturing Company”への変革を目指してまいります。

参考資料

